

実務経験のある教員等による授業科目（2019年度開講科目）

● 薬学部 薬学科

薬学部薬学科（6年制）は、薬剤師という高度医療人を育成するため、薬剤師や製薬企業等での実務経験のある教員による授業が計画的に提供されています。5年次には医療現場での実習が必修科目となっており、病院や薬局で医療チームの一員となって現場の薬剤師等の指導を受けながら、十分な実務経験を積むことができます。

- 実務経験のある教員等による授業科目の単位数 41 単位
- シラバス（授業計画）を公表しているウェブサイトへのリンク
<http://www.tohoku-mpu.ac.jp/pharmacy/contents/curriculum/>

科目名	履修年次	担当責任者・ 教員	単位数	担当教員の实務経験等
薬学入門	1	鈴木 常義	1	この授業は、「薬剤師として求められる基本的資質」を理解して医療と薬学の歴史を認識するとともに、薬剤師の役割と使命感を理解する授業である。授業担当者は、薬剤師や医師、看護師として勤務経験を有し、各専門分野より低学年から薬剤師になる目標を設定して薬学を学習するモチベーションを高めることを目的とした授業を行っている。
薬物療法学Ⅰ	3	菅野 秀一	1	この授業は、医薬品を疾病の病態に基づいて合理的、有効かつ安全に使用するために、代表的な疾患の薬物療法に必要な薬物の選択と使用上の基本的知識を習得する授業である。特に、癌化学療法などの高度先進医療を授業の中心とするため、授業担当者は、病院薬剤師として勤務した経験を基に薬物療法の多様化・複雑化に対応した授業を行っている。
医療倫理入門	3	小嶋 文良	1	医療従事者にとって倫理感の醸成は不可欠であり、大学の教育用に医療倫理に関するテキストやDVDも市販されている。また、授業の一環として学生同士のディスカッションや発表を实践させることも可能である。しかし、医療倫理教育では、それだけでなく、実際の業務の中で患者や家族への対応、医療や介護スタッフとの多職種連携等、実践した者でなければ伝えられないことがある。授業担当者は実務経験がある病院薬剤師として患者やご

				家族、医療や介護スタッフとの関りを活かし、相手を慮った理解が必要であることが気づける授業を行っている。
製剤学	3	我妻 恭行	1	この授業は、いわゆる「製剤化のサイエンス」のうち、代表的な製剤、製剤化と製剤試験法、生物学的同等性、ドラッグデリバリシステム、ターゲティング等について解説する授業である。授業担当者は、病院薬剤師として20年以上の勤務経験があり、その間、DI、製剤、医薬品管理、医療安全に関して特に専門的な業務を行っていた。これらの経験を活かし、製剤の実物を示しながら、製剤の特性や製造法について説明をしている他、製剤の安全性についても解説をしている。
薬物療法学Ⅳ	4	菅野 秀一	1	この授業は、医薬品を疾病の病態に基づいて合理的、有効かつ安全に使用するために、代表的な疾患の薬物療法に必要な薬物の選択と使用上の基本的知識を習得する授業である。授業担当者は、病院薬剤師として勤務した経験を基に、血液作用薬や内分泌治療薬など、臨床において繁用される薬物療法の多様化・複雑化に対応した授業を行っている。
薬物療法学Ⅴ	4	蓬田 伸	1	この授業は、医薬品を疾病に基づいて、合理的、有効かつ安全に使用するために、必要な薬物の選択と使用上の基本的な知識を習得することを目的とするものである。授業担当者は、病院・調剤薬局の薬剤師として勤務した経験に基づいて、薬物の選択及び処方提案、さらには副作用発現などを実際に現場での話を交えながら授業を行っている。
地域医療	4	小嶋 文良	1	この授業は、5年次の薬局実務実習に行く前に、地域において薬局や薬剤師が地域へ貢献するためにどのような役割を担い、活動を行っているか、また地域内の医療施設や福祉施設との関わりについての知識を身に付けるための授業である。授業担当者は、薬剤師としての実務経験をもとに、薬局と地域住民との関り、地域の病院をはじめとした医療施設、福祉施設、地域包括支援センター等の役割やその連携の重要性についての実体験に基づいた授業を行とともに、薬局の在宅医療への関わりについて体験に基づく授業を行っている。
セルフメディケーション論	4	佐藤 祥子	1	この授業は、要指導医薬品・一般用医薬品およびセルフメディケーションに関する基本的知識と薬物治療実施に必要な情報を自ら収集するための知識の修得を目標としている。授業担当者は、薬剤師として勤務した経験をもとに、セルフメディケーションを支える薬剤師に必要な知識について授業を行っている。更に経験豊富なドラッグストアの現役薬剤師を非常勤講師として招聘し、具体的事例に基づく授業を行っている。
調剤学	4	鈴木 常義	1	この授業は、処方箋に基づく医薬品の調製、多数の処方例に対する疑義照会や服薬指導、薬物治療の個別最適化および処方設計や処方提案など医療技術の高度化に対応した調剤の授業である。授業担当者は、病院薬剤師として勤務した経験を基に薬剤業務の多様化・複雑化に対応した授業を行っている。

薬剤症候学	4	岡田 浩司 佐藤 祥子	1	<p>この授業は、薬剤師として薬物治療における適切な評価と副作用の早期発見ができるようになるために、患者の訴えや症状から病態を理解できる能力を修得する授業である。授業担当者はがん専門薬剤師としての経験をもとに、がん化学療法、緩和ケアの模擬症例をベースとして、患者の訴え、検査値、バイタルサイン等から病態や副作用を推論し、薬剤師として患者の安全を守り、副作用を軽減するために必要な行動をとることができるように授業を行っている。(岡田)</p> <p>この授業は、薬剤師として薬物治療における適切な評価と副作用の早期発見ができるよう、患者の訴えや症状から病態を理解するための能力を修得することを目標としている。第11回から14回授業では、授業担当者が病院薬剤師として勤務した経験をもとに、副作用の早期発見のために必要な症状や検査所見を、症例を提示し解説している。(佐藤)</p>
医療コミュニケーション論	4	鈴木 裕之	1	<p>この授業は、1-3年で学ぶ基礎的なコミュニケーション論を土台に、医療における薬剤師の責務を果たすために薬剤師にとって必要な医療コミュニケーションに関する授業である。授業担当者は、病院にて勤務した経験を基に、今後の薬剤師に求められるコミュニケーション能力の取得に対応した授業を行っている。社会における薬剤師の責務、患者心理の理解、コミュニケーションテクニック、医療記録の方法、事例に応じたコミュニケーションの取り方などである。</p>
薬剤師業務概論	4	薄井 健介	1	<p>本授業は5年次に病院や薬局で実習をするにあたり、現在の薬剤師業務を理解する目的で開講されている。授業担当者は過去に薬局、ドラッグストアの勤務経験を持ち、現在は附属病院における薬剤師を兼務しているため、薬剤師業務全般を過去の経験を基に授業するとともに、刻々と変化する病院薬剤師業務の授業をリアルタイムに展開している。</p>
医薬品情報学	4	村井 ユリ子	1	<p>この授業は5年次の実務実習の事前学習に位置付けられる科目である。授業担当者は医薬品情報室担当薬剤師として病院に勤務した経験をもとに、薬剤師の Vital skill ともいえる医薬品情報の取扱い（収集・提供）や評価について、より臨床を意識した内容で授業を行っている。臨場感が増すような工夫として、例えば臨床現場の薬剤師も活用している医薬品医療機器総合機構の医薬品情報提供システム PMDA メディナビを利用したり、発出された安全性速報をタイムリーに教材に用いたりしている。</p>

医療安全管理学	4	岡田 浩司 蓬田 伸	1	<p>この授業は、薬剤師の業務が人命にかかわる仕事であることを認識し、患者および医療従事者が被る危険を回避し、適正使用できるように、医薬品使用における危険因子と医療事故・過誤対策立案、および医薬品の管理と使用時の注意点に関する基本的知識、技能、態度を習得する授業である。授業担当者は、病院薬剤師として業務に携わった経験を基に、実際の現場の事例などを挙げながら、医療安全における薬剤師の役割を学生が主体的に考えることができるように授業を行っている。(岡田)</p> <p>この授業は、患者及び医療従事者が被る危険を回避し、医薬品等を適正使用できるよう基本的知識、技能等を取得することを目的としている。授業担当者は、病院の薬剤師として勤務した経験を基に、医薬品の配合変化や品質に影響を与える因子、輸液の代表的な使い方、注射剤の投与方法等について、現場で起きたことを交えながら授業を行っている。(蓮田)</p>
臨床薬学演習Ⅰ	4	林 貴史	1	<p>実務実習で調剤ができるようになるために、薬剤師として業務している経験を活かして、調剤業務に従事する場面を想定した実践的な対応を教えている。医薬品の管理業務の授業では、法律で規定されていることに対して、実際にどのような対応が必要なのかを、薬剤師として勤務している経験に基づいて教えている。薬剤師として勤務している中で確認している最新の処方動向に合わせて、代表的な8疾患に対して使用される薬剤に関する授業を行なっている。</p>
臨床薬学演習Ⅱ	4	鈴木 裕之	1	<p>この演習は、調剤を行うにあたり必須である処方解析および処方提案ができるようになるために、医薬品の用法・用量を学び、小児、妊婦、高齢者、腎機能・肝機能低下患者等に合わせ臨床薬学的アプローチを実践的に学ぶ科目である。授業担当者は、病院にて調剤や薬物血中濃度解析による処方設計を行っていた経験を基に薬剤師の責務である薬物療法の質の向上に対応した授業を行なっている。</p>

医薬品安全性学	4	我妻 恭行 林 貴史	1	<p>この授業は、4年後期の薬剤症候学とともに薬の副作用に関する専門科目である。薬剤症候学が主に副作用の症候を説明するのに対し、本授業は薬の副作用の発現メカニズムについて詳細に解説している。</p> <p>授業担当者は、病院薬剤師として20年以上の経験を有し、また、内10年は医療安全の専門家としての業務経験を有する。その経験から副作用発現のメカニズムと実際の副作用とを関連付けた授業を行っている。(我妻)</p> <p>薬剤による副作用や有害作用についての発現機序や対処法を、薬剤師実務を通して経験したことをまじえて授業を行なっている。特に、薬剤の販売前には予期できなかった副作用でも、患者への服薬説明を通して早期に発見し、患者被害を最小限にとどめる具体的な方策について、薬剤師として勤務していることを活かして、学生に教えている。(林)</p>
認定・専門薬剤師概論	4	村井 ユリ子 薄井 健介 岡田 浩司	1	<p>この科目はオムニバス形式で、様々な領域の認定・専門薬剤師の資格をもつ講師の授業を聴講する選択科目である。授業担当者は第2回授業の医薬品情報専門薬剤師について担当し、日進月歩の科学技術や医療を背景に、資格取得の過程だけでなく、その後の認定更新に際して生涯研修や自己研鑽が大切であることを、体験をもとに紹介している。(村井)</p> <p>担当する回の授業では、地域における薬剤師の役割について、その専門性を紹介している。特にドーピング防止対策に関わる専門的な薬剤師業務については、スポーツファーマシストとして活動した実績を基に、体験を通じた授業を展開している。(薄井)</p> <p>この授業は、将来、認定薬剤師、専門薬剤師など専門性を高めて医療に貢献するために必要な基本的知識、態度を修得し、自己研鑽のステップとするための授業である。授業担当者はがん専門薬剤師としての経験をもとに、がん治療をとりまく現状、がん関連の認定・専門薬剤師の現状、がん関連の認定・専門薬剤師の役割、がん関連の認定・専門薬剤師になるために必要なこと、がん関連の認定・専門薬剤師の未来について授業を行っている。(岡田)</p>
救急治療・災害医療	4	鈴木 常義	1	<p>この授業は、救急・災害・事故・中毒の発生時に病院、薬局、医薬品卸、行政職の薬剤師がその専門性を発揮して、救急・災害医療チームの一員として行うべき活動内容、そのための準備体制について学ぶ授業である。授業担当者は、医療現場で救急を担当する医師・薬剤師、東日本大震災を経験した薬局・病院勤務薬剤師、行政担当薬剤師、卸勤務薬剤師等からなる講師陣による具体的な行動体験に基づく授業を行っている。</p>

実務模擬実習	4	鈴木 常義	2	本実習は、事前学習の一つであり5年次の薬局実習・病院実習に先立って、大学内で調剤及び製剤、服薬指導などの薬剤師業務に必要な基本的知識、技能、態度を修得するための実習である。実習担当教員は、病院・薬局の勤務経験を有しており、更に病院・薬局の現役薬剤師を非常勤講師として招聘しているため、実習目的に合致した指導教員を配置している。
実務実習Ⅰ（病院）	5	鈴木 常義	10	患者・生活者本位の視点に立ち、薬剤師として病院や薬局などの臨床現場で活躍するために、薬物療法の実践と、チーム医療・地域保健医療への参画に必要な基本的事項を修得するため臨床現場（下記 URL の実習施設）において、指導薬剤師等からの指導のもと実践的な知識・技能を身につけている。 http://www.tohoku-mpu.ac.jp/pharmacy/pharmacology_training_center/
実務実習Ⅱ（薬局）	5	鈴木 常義	10	患者・生活者本位の視点に立ち、薬剤師として病院や薬局などの臨床現場で活躍するために、薬物療法の実践と、チーム医療・地域保健医療への参画に必要な基本的事項を修得するため臨床現場（下記 URL の実習施設）において、指導薬剤師等からの指導のもと実践的な知識・技能を身につけている。 http://www.tohoku-mpu.ac.jp/pharmacy/pharmacology_training_center/